

平成 26 年度大学院入学式 式辞

新入生の皆さん、筑波大学大学院への入学おめでとうございます。教職員一同、皆さんを心より歓迎し、お祝い申し上げます。また、ご両親をはじめとするご家族の皆様、関係者の方々にも心よりお祝いを申し上げます。

大学の役割とは何でしょうか？筑波大学のミッションは？そして、皆さんは何を学ぶのでしょうか？

大学は真理探求の府であり、社会に還元できる新たな工夫を生み出す場所でもあります。同時に、質の高い研究を通じてそれらを成し得る人材を育てるところです。このような役割は大学が創成された時も、その後の歴史を経ても変わってはいません。にもかかわらず、今、なぜ大学の役割が問い直されているのでしょうか。社会はグローバル化し、激動し、混乱しています。グローバル化した社会は大学の基本的な役割に加えて変容する社会のニーズに応えることを求めているのではないのでしょうか。たとえば、真理探求の過程では、往々にして狭い専門分野に閉じこもってしまう場合があります。しかし、元来 **university** は、個々の学問分野の成熟を基盤に、異分野との融合を育み、新たな学問分野を生み出す場所です。このようなダイナミズムは専門分野に関する理解の深さとその異分野に関する理解の広さに依存しています。特に、イノベーション創出に関する研究分野では必要な観点だと考えています。

筑波大学は時代の背景と大学自身の特性に鑑みて、「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材育成」を自らのミッションと定めて、研究教育を進めています。本学は、昨年 10 月 1 日に、開学 40 周年を迎えました。本学は、1973 年（昭和 48 年）に当時の東京教育大学をベースに、我が国で最も斬新な国立の総合大学として開学しました。また、本学は、1872 年（明治 5 年）に我が国最初の高等教育機関である「師範学校」を創基とし、その後筑波大学に変わるまでの 101 年という長い伝統と実績を誇る大学でもあります。先にも述べたように大学の変革と再生が求められている今日ですが、それを先取りするように、本学は 40 年前に大学に対する新しい考え方を取り入れて、「新構想大学」として多くの期待や夢をこめて、自然あふれるつくばの地に移ってきました。本学は、それまでの日本の大学の在り方をしっかりと考察し、怯むことなく大学の役割を追求するために理想を掲げて努力を続けてきました。そのための基本的な認識は、「従来の大学は、狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった」と建学の理念で述べられています。この認識は決して過去のものではありません。そして、このような状況を打破するために、柔軟な教育と研究を追求できる組織づくりを実現してきました。従来の観念に捉われず、本学はあらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、次代が求める新しい大学の仕組みを確立する「不断の改革」を先導してきました。実際、この 40 年の間に本学が挑戦してきた「新構想」の多くは、我が国の他の多くの大学に波及してきました。

それでは、皆さんは大学院で何を目指して学修するのでしょうか？人類は、今、様々な深刻な問題に直面しています。科学と技術の進歩により、我々は快適な生活をおくっています。しかし一方で、科学と技術の進歩は数多くの問題を発生させてきました。エネルギー・天然資源の枯渇の問題、産業・経済の停滞の問題、少子高齢化の問題を含む人口構成の問題、新興・再興感染症の問題などの社会の発展に伴う種々の問題です。しかし、これらの問題を解決するのも科学と技術です。このような問題を解決するために、我々はあらゆる分野で、新たな解決策やこれまで以上の成長を生み出そうと努力をしています。そして問題解決にあたっては、異分野の協働が必要になる場合が多々あります。さらに、これらは地球規模の課題ですから、問題を地球規模で共有し、解決に向けた活路を地球市民として見出していかなければなりません。

まず異分野との協働について考えてみましょう。大切なことは、自分の専門分野を持ち、しっかりとした力を付けることです。大学、特に大学院での学問で重要なことは、体系的な知識の習得を基盤に、これまでに解かれていない問題に挑戦することにあります。その問題が解けた時には、解いた皆さん自身がその分野の最先端にいることとなります。勿論、科学の世界は日進月歩ですので、今日の研究成果は次の研究目標を生み、今日の最先端はやがてその位置を次の研究成果に譲ることもあるかもしれません。我々学徒は、常に謙虚で、真摯な態度で科学に向かわなければなりません。こうした努力で得られた実力を発揮するためには、異分野との協働が必要になることがあります。

例をあげてみましょう。情報工学の専門分野で電子工学や材料科学も含めてしっかり学び、新しい機能性を持ったロボットを作り出す機会を得た場面を想像してみてください。工学的な設計と制作のためにさらに必要な研究計画を立案し、必要なエンジニア仲間も集まり、資金も潤沢です。新世代ロボットの作製はスタートできるでしょうか？設計と制作の前にまだ考えなければならないことがあります。たとえば、その作ろうとしている新世代ロボットは機械なのでしょうか？それとも擬似的ではあっても生命体なのかもしれません。ある一人暮らしの老人が、ロボットの犬と暮らしているところを想像してみてください。その老人は、そのロボット犬とどんな時間を持っているのでしょうか。ロボット犬は老人にとって機械以上の存在なのではないのでしょうか。このように考えた時、設計と制作の段階で、これらの心の要因まで考慮すべきです。さらに、このようなロボット犬を壊すという行為は単なる機械の損壊ではないのかもしれませんが。基盤的なフィロソフィーの問題をしっかりと議論し、新しい法律すら必要ではないでしょうか。本学ではこのような異分野の協業が可能です。本学は、他に類を見ない幅広い学問分野を持つ総合大学であり、専門分野を深化させながら、学際・融合的な教育研究を積極的に展開し、数々の国際的に評価を得ている研究成果を上げてきています。

さて、もう一つのポイント、すなわち地球規模についてです。本学は様々な問題を地球規模で共有できる環境を提供できます。大学での活動は、大学の中だけにはとどまりません。大学を取り巻く地域、日本の各地、そして世界が活動する場所です。本学は開学当初から、国籍や言語の垣根を越えて学びあう学生と教員の知の共同体です。実際、本学の留学生数は国立大学の中ではトップクラスです。キャンパスのみならず研究学園都市を標榜する街にはさまざまなことばと文化が行き交い、居ながらにして世界を感じることができます。本学は10ヶ所の海外オフィスを有し、また55の国と地域及び国際連合大学と合計225件の交流協定を結んでおり、海外での学修機会も多く、またそのための経済的支援も充実しています。このように世界の様々な場所から人々が集い、また世界で様々な人々と出会う時、最も大切なことは良いコミュニケーションを成立させることです。その基盤は、多様な価値観を認めることです。国と国あるいは人と人はすべて互いに「同じ」ではないということ認識することから始まります。「異なっている」ということを意識することです。「異なっている」が故に、個々のアイデンティティの確立が必要であり、同時にコミュニケーションが重要なのです。「同じ」ということと「理解する」ということは別です。お互いの尊敬と理解が強い友情や優れた協働作業を生み出す絆に繋がるのだと思います。「異なる」ということは、さらなる多様性を生み出すためにも重要なポイントです。私は、これまで生命科学分野で研究をすすめてきました。多様性は生命の存続と進化にとって最も基本的な要件の一つです。

グローバル化した社会の中で、筑波大学は夢と理想を追い続けます。「新構想大学」から一歩踏み出して、「未来構想大学」を目指しています。皆さんはその大学の中で、それぞれの夢を追い、ヒトと地球の豊かな未来を作り出す力を蓄えていきます。未来を拓く視点を、本学では分かりやすく **IMAGINE THE FUTURE.** というキャッチフレーズで表現しています。未来を想像できなければ、未来を創り出すことはできません。アラン・ケイは「未来を予測する最善の方法は、それを創り出すことだ」と述べています。

最後になりますが、研究型大学院大学の本学で学ぶ皆さんには、修了時には、新しい時代の

先駆者として社会を牽引する力が期待されています。皆さんが、本学で幅広い学識と深い専門力を身に付け、TSUKUBA から世界に飛び出し、ヒトと地球の未来を切り拓いていってくださる日に向かって努力されることを期待して、私の式辞といたします。

平成 26 年 4 月 7 日

筑波大学長 永田 恭介